

令和8年9月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	9	議席 番号	6	氏名	中 野 健太郎 議員	1 / 2
発 言 項 目		要 旨				答 弁 者
1	もっと「交流」できる交流センターを目指して	富士宮市内4か所の交流センターは、公益財団法人富士宮市振興公社が指定管理者として管理運営を担っている。交流センターは、単に施設の維持管理や貸館業務を行うだけではなく、社会教育活動、市民活動支援、国際交流活動など、地域の人や団体をつなぐ役割も担っている。 特に駅前交流センターさらでは、令和7年度の事業報告において、市民活動専門相談業務として相談会及び交流会を年間15回実施したことや、市民活動団体及び活動参加者へ各団体のチラシを配架し活動内容を周知したことが報告された。また、国際交流団体への支援として、民間団体の企画相談や事業の後援、国際交流協会への支援なども実施している。 さらには、さらさらに限らず、市内4か所の交流センターでは、地域コミュニティとの連携を図るため運営協議会を設置し、地域との意見交換を行っている。 このような取組を見ると、交流センターには、単に「部屋を貸す」「施設を管理する」だけではなく、地域の人、団体、企業、行政などをつなぎ、新たな活動や交流を生み出す「中間支援」の拠点となる可能性があると考え。 一方で、施設の予約受付や窓口・電話対応、台帳管理など、定型的な業務に職員の時間が割かれているのであれば、DX化によってこうした業務を効率化することで、職員が地域に出向き、人や団体をつなぐなど、より中間支援に力を注ぐことができるのではないかと考える。 そこで、DXを単なる業務効率化にとどめず、そこで生み出された人的資源を中間支援機能の充実につなげるという観点から、今後の交流センターの運営について、以下伺う。 (1) 現在、交流センターに求められている役割について、市はどのように認識しているか。また、地域の人や団体をつなぐ「中間支援」の拠点としての役割を担うことについて、どのように考えているか。 (2) 交流センターの業務には、予約受付や窓口・電話対応、台帳管理など、デジタル技術を活用することで効率化できる業務がある一方、職員が地域の人や団体と直接関わる重要な業務もあると考える。行政改革の観点から、交流センターの業務を整理しDXによる効率化を進めることで、人が担うべき業務に人的資源を振り向けていく考えについて、市当局の見解を伺う。 (3) DXによって定型的な業務を効率化することにより、地域の課題や活動を把握し人や団体、企業、行政などをつなぐなど、職員が中間支援機能を充実させる時間へと振り向けることができるのではないかと考える。こうした機能を担うため交流センターに求められる役割や能力について、指定管理者と共有し、交流センターの運営に生かしていく考えはあるか。 (4) 中間支援機能を強化するためには、施設管理に関する知識・経験だけでなく、地域の課題を把握する力、人や団体をつなぐ力、企画やコーディネートを行う力など、様々な能力が必要になる。こうした能力を有する職員を育成することは、今後の交流センターの役割を果たす上で重要であると考えますが、市として、指定管理者に求める人材育成の				市長 副市長 教育長 関係部長

令和8年9月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	9	議席 番号	6	氏名	中 野 健太郎 議員	2 / 2
発 言 項 目		要 旨				答 弁 者
		在り方を明確にし、必要な研修や実務経験等を通じた職員の能力向上を促す考えについて、市当局の見解を伺う。 (5) 交流センターを単なる「公共施設」としてではなく、地域の人や団体、企業、行政などをつなぎ、「地域の活力を生み出すプラットフォーム」として捉えるのであれば、指定管理者に求める業務内容やその評価の在り方についても見直していく必要があると考える。今後、指定管理者に対して、中間支援機能や地域とのつながりを生み出す取組を強化する役割を明確に位置付けるとともに、その実施状況を評価していく考えについて、市当局の見解を伺う。				